



~13  
3843  
11





門 へ 13  
號 3843  
卷 11

繪本西遊記二編卷之二

外道迷真性

元神助本心

斯<sup>く</sup>銀角<sup>ぎんかく</sup>八戒<sup>はっかい</sup>を曳<sup>ひ</sup>せ<sup>く</sup>洞<sup>どう</sup>の裡<sup>うち</sup>へ回<sup>まわ</sup>り<sup>て</sup>金角<sup>きんかく</sup>小斯<sup>せうそく</sup>と報<sup>う</sup>じ<sup>を</sup>ぬ<sup>べ</sup>金  
角<sup>かく</sup>画<sup>え</sup>図<sup>ず</sup>成<sup>じやう</sup>用<sup>よう</sup>を<sup>し</sup>引<sup>ひ</sup>合<sup>あ</sup>せ<sup>し</sup>大<sup>おほ</sup>い<sup>に</sup>悦<sup>よろこ</sup>び<sup>果</sup>然<sup>たしか</sup>他<sup>た</sup>猪<sup>ちよ</sup>八戒<sup>はっかい</sup>なり<sup>早</sup>く<sup>は</sup>返<sup>かえ</sup>り<sup>池</sup>  
中<sup>ちゆう</sup>小<sup>せう</sup>浸<sup>ひ</sup>し<sup>雨</sup>日<sup>あめ</sup>成<sup>な</sup>過<sup>か</sup>し<sup>下</sup>酒<sup>さけ</sup>飲<sup>のみ</sup>な<sup>し</sup>と<sup>し</sup>て<sup>小</sup>妖<sup>あや</sup>小<sup>せう</sup>余<sup>あま</sup>し<sup>く</sup>八<sup>は</sup>戒<sup>かい</sup>を<sup>曳</sup>  
返<sup>かえ</sup>り<sup>池</sup>水<sup>みづ</sup>小<sup>せう</sup>浸<sup>ひ</sup>し<sup>と</sup>扱<sup>あ</sup>銀<sup>ぎん</sup>角<sup>かく</sup>小<sup>せう</sup>向<sup>むか</sup>ひ<sup>汝</sup>既<sup>すで</sup>小<sup>せう</sup>八<sup>は</sup>戒<sup>かい</sup>を<sup>捉</sup>け<sup>り</sup>唐<sup>たう</sup>僧<sup>そう</sup>必<sup>かならず</sup>  
を<sup>迎</sup>む<sup>ふ</sup>あ<sup>ら</sup>し<sup>再</sup>行<sup>かう</sup>し<sup>山</sup>を<sup>巡</sup>り<sup>唐</sup>僧<sup>そう</sup>小<sup>せう</sup>遇<sup>あ</sup>ひ<sup>提</sup>き<sup>し</sup>れ<sup>只</sup>の<sup>孫</sup>行<sup>こう</sup>者<sup>しや</sup>を<sup>神</sup>  
通<sup>とん</sup>廣<sup>くわう</sup>大<sup>たい</sup>なり<sup>と</sup>皮<sup>かわ</sup>裡<sup>うち</sup>に<sup>八</sup>歌<sup>か</sup>一<sup>いつ</sup>難<sup>がた</sup>し<sup>宜</sup>く<sup>謀</sup>を<sup>あ</sup>つ<sup>て</sup>擒<sup>とら</sup>め<sup>せ</sup>よ  
銀<sup>ぎん</sup>角<sup>かく</sup>唯<sup>ただ</sup>々<sup>と</sup>々<sup>と</sup>再<sup>また</sup>小<sup>せう</sup>怪<sup>かい</sup>若<sup>ごと</sup>く<sup>于</sup>成<sup>じやう</sup>率<sup>そつ</sup>ひ<sup>高</sup>山<sup>かう</sup>小<sup>せう</sup>登<sup>のぼ</sup>り<sup>四</sup>方<sup>ほう</sup>成<sup>じやう</sup>鏡<sup>きやう</sup>ひ<sup>居</sup>  
且<sup>かつ</sup>此<sup>こゝ</sup>三<sup>さん</sup>藏<sup>ざう</sup>孫<sup>そん</sup>行<sup>こう</sup>者<sup>しや</sup>小<sup>せう</sup>向<sup>むか</sup>ひ<sup>八</sup>戒<sup>かい</sup>去<sup>さ</sup>り<sup>妻</sup>同<sup>どう</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>今</sup>小<sup>せう</sup>飯<sup>い</sup>を<sup>ま</sup>き<sup>ま</sup>す<sup>是</sup>  
如何<sup>いか</sup>なる<sup>故</sup>ぞ<sup>と</sup>同<sup>どう</sup>行<sup>こう</sup>者<sup>しや</sup>が<sup>曰</sup>那<sup>な</sup>彭<sup>ほう</sup>子<sup>し</sup>と<sup>途</sup>中<sup>ちゆう</sup>小<sup>せう</sup>腫<sup>しゆ</sup>を<sup>居</sup>ひ<sup>あ</sup>や<sup>師</sup>父<sup>ふ</sup>先<sup>ま</sup>



西遊記二編卷之二



馬ふ棄り我々一匹小行尋ひの乙。三藏然るる馬ふ騎師徒一存  
 小山中へ尋ひ入銀角山上より是を刀々果然唐僧きふり悦び小  
 怪ふ余々曰吾今變化して唐僧ホ三人を捉り汝ホ茲有るを  
 よと忽ち年老る道士と變り跌り傷るる体をり是より血を  
 流し草乃上倒伏す余を救ひんとぞ叫び居る。三藏此声を聞  
 二人小向ひかる山中何人如此叫びぬるやと問同小妖怪草中より爬  
 出るあふりり礼成り守。三藏是成りる小年老る道士なきは  
 連忙馬より起下り挽起さんととる。銀角故意と声然揚疼痛々  
 早く手放ちりるとり。三藏心けをかり手放ちりり。かまこと  
 他が足折し損れ血乃流るる。淋津をを強く其故成問銀角  
 白吾ハ此山乃西なる清幽觀とて小觀中乃道士ふはが前日徒弟と

小山乃南なる施主の家ふ赴た襍星散福をりり。不計  
 猛虎小遇吾徒弟ハ皆他小吃れ。吾ハ余成捨逃走り小忽ち石  
 小跌り倒れ如此足成傷り觀中へ飯りけと再度虎出きりハ逃る  
 り能ハド。今幸ふ師又の來臨小遇願くハ吾成枝け飯り。あまハ三藏  
 甚る憐れ先生串心つるり。吾枝り送り飯さんと。孫行者小向  
 ひ。汝此道士を駄り那觀中へ送り行よと命ど悟空ハ早く道士をバ  
 妖怪なりと知一棍小歩殺さすかり。又以前りり師又小責らるる  
 んりを怕る。輕心手成下さす。命小應り道士成駄。行々三五里乃  
 道成過る。小三藏悟淨ハ先小歩り山乃凹なる処へ下り。稍形ハ見え  
 され。須波今こそ妖怪を歩殺さんとかり。妖怪も早く是をさとり  
 元來銀角一個の法術あり。天下乃山を遣り自在をり。行者り



背上せうらに在ある。捻ねん訣けつ念ねん咒じゆとて、忽たちまち一ひと坐ざり須す弥み山さんをとり、孫そん行ぎやう者しや上じやうに  
 小せう落らくしらる。行ぎやう者しや早はやく身みを傾かたけ、避さ避さしらる。左ひだりの肩かた小せう受じゆ留りゆう冷れい笑ぎやうて曰いふ  
 賊ぞく怪かい何なにぞ重ちゆう身しんの法はうを使つかひ吾われを厭いとしらる。銀ぎん角かく他たを厭いと損そんしらる  
 然しかんど又また念ねん咒じゆ一ひと坐ざりて、我われ眉まゆ山さんを空そら中ちゆうより落おちらる。行ぎやう者しや是こゝにある  
 閃せん外がわより右みぎの肩かた小せう受じゆ留りゆう両りやう坐ざりて、大だい山さんを肩かたの上うへにあからせらる。星ほしの  
 光ひかりがあらわる。三さん藏ざう小せう追お追お付つしらる。銀ぎん角かく以もつて外がわ小せう驚おどろろたらる。又また忙いそがく念ねん咒じゆ一ひと  
 坐ざりて、泰たい山さんを空そら中ちゆうより行ぎやう者しやが頭あたまの上うへにあからせらる。是こゝにあるにより神かみ通つう  
 廣くわう大だいの行ぎやう者しやも泰たい山さん歷れき頂ていの法はう小せう遭ざう三さん坐ざりて、神かみ山さん小せう歷れきしらる。終つひ小せうの  
 處ところ一ひと歷れき倒たふされば七しち竅きやうより血ちを流ながし、敢あらう勤ごんたらる。銀ぎん角かく仕しとあらわぬにとく  
 急きゆう小せう三さん藏ざうを追お追お追お雲うん中ちゆうより手て成なり伸のびし、人ひと馬まりらる。搔かからる。悟ご淨じやうをあらわぬにとく  
 小せう提てい一ひと終つひ一ひと陣じんの風かぜを幾いくしらる。蓮れん花け洞どうよりあらわる。大だい音おん小せう弟てい既すで

小唐僧せうたうそう徒たを捉とまらせらる。呼よびらる。金きん角かく動どうたらる。是こゝにある。是こゝにある。是こゝにある。  
 僧そうと汝に和尚わしやうなりしといふ。肝かん心しんの孫そん行ぎやう者しや我われ捉とまらせらる。唐たう僧そうを吃くひしといふ。  
 難なんむ。銀ぎん角かく呵かといふ。大だい王わう過か念ねんしらる。那な孫そん行ぎやう者しや小せう弟てい三さん坐ざりて、神かみ  
 山さんを以もつて歷れきたらる。今いま我われ々々行ぎやう小せう及およぶ。只ただ兩りやう個こ小せう的てき小せう命めいといふ。  
 大だい王わうの二ふた件けんの宝ほう貝がいを持もつ。装まきらる。金きん角かく是こゝにある。大だい小せう  
 悦えつひし。即すなはち小せう紫し金きん紅かう葫こ芦ろ羊やう脂し王わう淨じやう瓶びんといふ。二ふた個こ小せう宝ほう貝がいを取とり出だす。  
 精せい細さい鬼き伶れい俐れい虫ちゆうといふ。二ふた人にん小せう奴ぬを呼よび、汝に小せう北きた宝ほう貝がいを持もつ。高かう山さん小せう登とう王わう  
 葫こ芦ろ淨じやう瓶びん乃すなはち二ふた件けん底ていを天あまの口くちを地ち小せう向むかひし。孫そん行ぎやう者しやと呼よび、他たをあらわぬにとく  
 即すなはち他たをあらわぬにとく。早はやく持もつ。我われ又また太たい上じやう老らう君きん奉ほう勅てき急きゆうといふ。如ごとく  
 乃すなはち帖てい兒いを貼はち、時とき他たが身み体たい二ふた三さん刺さりし。同どう小せう化けといふ。血ち水すいと成なりといふ。  
 宝ほう貝がいをあらわぬにとく。二ふた怪かい命めいを受うけ、出だ行ぎやう名な、金きん角かくといふ。銀ぎん角かく小せう令れいといふ。三さん



藏かく師弟を細縛こまきさせ高く即下ただちのよみと拘とらめたる。叔おじも孫行者そんこうじやう三山の  
 為ため小こ摩ま訶か羅ら神しん通つう変へん化くわの力ちから究きゆうまり涙なみだ乃すなはち下くだるし雨あめ乃すなはち下くだるし悲かな心こころや  
 我われ師し又また昔むかし日ひ雨あめ畏おそ山やまふし吾われを救たすひのひより徒と弟ていとなりし法ほ味みを  
 授たまらる。吾われ又また常つね小こ馬ま前まへ小こ有ある妖まじを驅かる路みちを用もち死し師し又またを保たも護ご  
 西せい天てん小こ行こうも小こ正せい果くわをほんるま針はりし小こ維いりし此こゝ處ところふりし  
 大だい障しょう乃すなはち小こ山さんをりしし摩ま訶か羅ら殺ころされ師し徒てい是こゝの千せん辛しん万まん苦く遂ついり  
 画え餅もちとなりとハ噫あや呼あ天てん又また命いのちとなりし声こゑをなげし叫なれし其その声こゑ直ただち  
 天てん上じやう小こ行こう衆しゆ神しんを致いた馬まし衆しゆ神しん此こゝ處ところ降くだ臨りんし中ちゆうの護ご法ほ掲か  
 締し三さん山さん成じやう忍にん孩がい曰いは此こゝ處ところ是こゝ維いりし管かんしし所ところを土ち地ち山さん神しん出い曰いは此こゝ  
 則すなはちち小こ神しんホウ官くわん理りとなりし山さんの護ご法ほ掲か締し叱し曰いは汝なんぢ亦また好この歹た成じやう也なり  
 つを山さん成じやう妖まじ怪かい小こ借かあら何なにぞ他たを摩ま訶か羅ら殺ころさんとなせしし此こゝ處ところ摩ま訶か羅ら殺ころする者ものと

誰たれとなりし是こゝ夜よ天てん大だい聖せい孫そん悟ご空くうなり今いま正せい果くわ小こ飯はんとなりし唐たう僧そう乃すなはち徒てい弟ていと  
 乃すなはち西せい天てん小こ行こう紅こうをなしし汝なんぢ亦また早はやく山さん成じやう把と他た成じやう救きう土ち地ち山さん神しん  
 大だい小こ恐おそ怖おそ急きゆう小こ行こうを念ねん動どう山さん成じやうとなりし本ほん乃すなはち處ところ回くわいせし行者こうじやう急きゆう小こ跳たう  
 里り成じやう金きん箍こ棒ぼうを制せい手て出い土ち地ち山さん神しんホウ頭とうをなしし土ち地ち山さん神しん頭とうをなしし  
 種たぐひ々々小こ陪はい礼らいとなりし處ところ小こ山さん乃すなはち凹くわう乃すなはち雨あめ段だん光くわう焰えん々々と煙えん々々となりし  
 あり行者こうじやう土ち地ち山さん神しん小こ向かう曰いは汝なんぢ亦また此こゝ處ところ小こ行こうを妖まじ怪かいからしし汝なんぢ亦また知しる  
 今いま彼か處ところより光くわう放はうつ何なに物ものぞ又また妖まじ怪かいが友ともとなりし何なに事こと乃すなはち人ひとを且かつ好この  
 める物もの何なになるし速すみ小こ行こうからしし罪つみを宥ゆるむ土ち地ち山さん神しん曰いは今いま彼か處ところ放はうつ  
 妖まじ怪かいが持もち所ところ乃すなはち宝ほう貝かい紫し金きん紅こう葫こ芦ろ羊やう脂し玉ぎよく淨じやう瓶びん乃すなはち兩りゆう件けんなり又また他たが友ともと  
 ともハ仙せん術じゆつをなしし道だう人じん好このめる物もの仙せん家か乃すなはち丹たん藥やくなり行者こうじやう亦また知しるし衆しゆ神しん  
 を飯はんしし身みを妻さいとなりし道だう人じんなり光くわうを目的めてき小こ行こう處ところ精しやう細さい鬼き伶りやう利り





西遊記二巻ノ一



悟空  
見平頂  
山於寶貝  
光暉

西遊記二巻ノ一



魚乃二枚出きり行者を口々怪し道士何方よりきこれると同行者答て  
 吾ハ蓬萊山よりきこる今日此山ふきり一人の好い仙術を傳へんとす  
 汝亦何国行ど精細鬼が曰我徒ハ此山中蓮花洞の小仙今大王の命  
 を受て山下ふり唐僧の徒弟孫行者我捉み行けり行者答て曰  
 那孫行者ハ神通廣大なりと歩つる汝亦入か力あく奈何を捉はん  
 伶俐虫もつて曰汝道士其二を知り其二をさす我弟二乃大王三座の大  
 山をりて他を匿れり故我徒ハ命二件の宝貝をりつて他を  
 装へ取りしや何ぞ他ハ神通を思ふんや行者又曰其宝貝如何ふ  
 る物あ何やふく人を装や伶俐虫則ち葫芦浄瓶の人を装由来  
 又封て人を血水とさるる委しく説かれ行者心小疑れり笑て  
 曰汝の宝貝好しといふもまが稀罕とさるるふくす吾ハ一個の宝貝あり

人を装てん小能ふあずとと暗小根の毫毛を抜とり長さ一尺七寸  
 許の葫芦と斐下腰間よりとり出さるる二妖是れ月夜云々  
 師又の宝貝も如何なる奇特のいや行者曰我此葫芦天を装の妖有  
 二妖疑れり曰此葫芦は是れ詐少くハいばとや行者笑て曰我何ぞ詐をり  
 づに疑ひを眼前に装てん乎伶俐虫精細鬼が袖を引り側へ  
 退た商量して云今此天を装葫芦と我人をりる葫芦と他ふくす  
 換かむ是莫大の利なるべし汝如何や精細鬼曰是甚る大利  
 かねども他必ず承引せしめ伶俐虫曰他ハ承引せしめん又此三  
 命を行者より暗ふりて二小換るをれ他一定喜々換へんと密に結  
 則ち換つらん天を装器し人を装器と品をけりて取換る理有



人や。汝其淨瓶を添を我於方一の換あれども換つるさし二妹が曰。我々  
 元来如此を敬とんぬも。只師又乃葫芦天我装の名成也。其美をん  
 る我恐るるなり。行者曰ささむ。我目前小天我装とん守。一と捨。捨念  
 咒語をとく。暗ふ日遊神を呼ぶ。曰。汝今我とん小玉帝。小奏せよ。我唐  
 僧を枝け。西天小つり。經をくく。乙とん。如。此平頂山。妖怪あり。二  
 件。の宝貝をり。門。行路を妨。依。我。針を殺。他。二件。の宝貝を  
 奪。之。願。く。真武君の皂旗を以。南天門。一。度。展。日月  
 星辰を閉。須臾。六合を闇。とな。我。其。を。つ。天を装。と。欺  
 た。妖怪。の宝貝を。師。又。難を救。日遊神。是。我。領。掌。悟  
 空。が。頼。の。お。ひ。た。を。奏。小。玉。帝。是。を。救。其。手。當。を。命。め。日  
 遊神。の。行者。が。耳。根。下。下。里。斯。と。報。む。る。ゆ。が。行者。斜。を。す。よ。る。び

二妹小向ひ。今そ天を装。刀。全。を。眼。を。定。め。と。ん。と。ひ。あ。く  
 一。那。葫。芦。を。と。つ。天。小。向。ひ。力。小。任。て。投。上。り。天。上。小。是。我。相。國。小。皂  
 旗。を。と。つ。一。度。展。ま。し。日。月。星。辰。を。遮。り。閉。し。四。方。暗。く。一。咫。尺。の  
 間。中。も。ち。が。く。な。り。二。妹。中。今。日。論。中。午。乃。節。か。る。何。と。斯  
 黒。闇。小。な。り。と。や。行者。曰。既。小。天。を。装。終。日。月。星。辰。を。と。葫。芦  
 の。裡。小。あり。何。が。是。暗。く。二。妹。心。疑。ひ。迷。ひ。声。を。上。道。士。此。所。何  
 の。地。方。な。り。と。向。孫。行。者。詭。曰。此。所。渤海。の。岸。の。上。なり。汝。小。足。を  
 動。さ。す。ま。な。れ。り。跌。倒。か。を。海。水。小。落。入。七。八。日。を。過。る。も。還。る。底。小  
 到。り。二。妹。以。外。小。驚。た。慌。忙。師。又。早。く。天。を。放。り。我。と。見。果  
 と。り。と。呼。ぶ。小。は。行者。又。咒。語。念。む。れ。天。上。小。皂。旗。を。卷。収。す。と  
 日。光。旧。乃。正。午。なり。二。妹。と。斯。乃。好。宝。貝。疾。く。換。ふ。





悟空闇  
 白昼  
 奪二個  
 寶貝

西遊記三編卷二



悟空

西遊記三編卷二

十



いと葫芦と淨瓶を行者小僧にせむ。行者は假物を二妖に授け、身を跳  
しく雲端ふれ上り。二妖は勾當を付ひたり。

魔頭巧奪困心猿

大聖騰那騙寶貝

斯く兩個の小怪、悟空は假葫芦をばく甚く悦び、互小手小とりて是  
をばく多分、伶俐虫頭を廻りて、那道士をばく多分、忽ち形を見失ひ、大  
大の洞窟に、怎麼う他辞もせむとて去り、精細鬼も發丸の突も、道人を  
何地行かぬか、孫行者假小神仙に狂まらうとて、我を哩、寶貝を奪  
ひ、わがあつさう。伶俐虫曰、等我此葫芦をりつて、天を装束、先小  
行者を抛り上らうとて。天小向ひ力に任せ、抛り上らば、其後撲的と落り  
是は如何とて、千錯万錯とれも装束は、扱は流るりて、孫行者小欺  
され、ちとて、精細鬼曰、不要乱説、我ち小他天を装束とれ、幾句の咒

経、くほ小天を装束。我汝小く、く装束、くんと。葫芦を把り、口中小  
咒、くく、叔力に任せ、抛り上らば、不昔撲的落き、く兩怪も大の小  
慌忙。是は、假物なり、く、秘し、悟り、強を、行者平空より、か、く、  
ひ終小葫芦、假り、毫毛を、把き、く、上身、収り、く、兩怪、ハ、四  
手皆空、く、葫芦を、さ、く、失ひ、く、狼狽、く、木の、下、草、乃、裡、く、搜せ  
く、く、く、く、兩怪、呆、く、将、く、く、面を、見、令、せ。我、亦、此、く、飯、を、必、す、殺  
され、か、ち、不知、是、より、散、火、と、て、た、が、精細鬼曰、二大王、哥、と、甚、好、我、  
汝、の、身、上、を、憑、く、世、命、を、く、く、助、く、く、く、先、く、く、く、二、大、王、  
た、の、く、く、く、博、歩、く、く、連、花、泪、へ、く、去、る。行者、是、を、く、く、又、身、を、  
く、く、茶、繩、と、かり、く、小怪、が、跟、付、て、く、飛、行、く。那、二、件、の、宝、貝、を、金  
箍、棒、と、等、く、身、小、隨、く、変、化、し、可、為、大、可、為、小、斯、く、行者、小、女、を、



洞裡ふりり窺ふふ兩個の十頭正ま面ま小坐せ酒を飲居のり伶俐れい虫  
 精細せい鬼きの二怪に坐ま下した小蹲こ只ただ管頭くわんを叩たた言こととては又また二に六む日にち法ぽう  
 小孫行者せうそんこうじやうを拿とりて二怪に蓋おほへて曰い願ねがうとて大王だい小せう的てきのう萬ま千せん虎こ罪ざいと者もの  
 一ひと身み我われ小せう寶貝くわいをとりて半ちう山ざん小せうのう河が小せう忽とちち蓬萊山ほうらいざんよりきりて二個に  
 乃すなは神仙せん小せう遇ぐ著しやくひいふ他た小せう一個いっのう葫こ芦ろありよと天てんを装まのう效きやうありとや我われ  
 小せう一ひと同どう他た小せう騙まされ人ひとを装ま寶貝くわいより天てんを装ま寶貝くわい十分じふ乃すなは德とくと心こころ二件にの  
 寶貝くわいと換かひひふ早はや道士だうし成なん失しひおとすも葫こ芦ろを由よし失しひひ万ま望ぼう大王だい  
 大慈だい悲ひををれり小せう的てきのう小せうが罪ざいを怒おこりて頭かぶをもつて地ちを叩たた謝あやまされ  
 金角きんかく銀ぎん角かく暴ぼう燥そう雷らいのう嘍ら死し了り々々々々是こゝ孫行者そんこうじやう神しん仙せん小せう假かりきりり  
 汝なんぢ小せうを欺あやむるなり那な猴ま頭とう如何いかく山やまを抜ぬ我われ寶貝くわいを騙まり奪うつるや  
 く他たを拿とりては寶貝くわい指さし三件さんあり七しち星せい劍けん芭蕉扇ばしやうせんハ身み辺へハあり又また一條いっ條じやうの

提ひ金きん繩じやうハは厩う龜き山さん厩う龜き洞どうの老母らうぼの所ところ小せう的てきをは老母らうぼの方かた使つか  
 唐僧たうそう乃すなは肉にくを吃くせしとは世よ他たが提ひ金きん繩じやうを帶たいきりて孫行者そんこうじやうが捉とへん  
 と商議しやうぎし巴山虎はさんこ倚よ海かい龜きといふ小怪せうかいを呼よび命めいを命めいと命めいと命めいを受う  
 去さり去さり行者こうじやう一ひと明白めいのう皮かわけりて翅つばさを閉とめ去さり又また妻つまとて一個いっのう小怪せうかいと成な  
 去さりて巴山虎はさんこといひ道みちを急いそぎ巴山虎はさんこ曰いふ午ご日にちより過あり行者こうじやう巴山虎はさんこ曰いふ  
 何なん程ほどの道みちあるや倚よ海かい龜き手て指さす曰い鳥林ちうりん此こゝ裡ところなり行者こうじやう是こゝを  
 鐵てつ棒ぼうを取とりて忽と倚よ海かい龜き巴山虎はさんこを殺ころす一いっ根こん乃すなは毫ごう毛もう成な抜ぬ  
 妻つまとて巴山虎はさんことて我われ身み又また妻つまとて倚よ海かい龜きとて鳥林ちうりん小せう萬ま令れい令れい  
 小せう兩扇りやうせんの石門せきもんあり半門はんもんを掩おほひ一個いっのう女にょ奴にょ停ていまり行者こうじやうをは向むか  
 曰い海かい巴は那な里りよりきりて行者こうじやう各おの々づ我われ蓮れん花け洞どうより使つかひま  
 去さり女にょ奴にょ就すち行者こうじやうを引ひて三層さんじやうの門もんを進すすみ入い行者こうじやう吃くと堂中だうちゆうと見





悟空殺びんごうころす

倚海龍よせうりゅう

巴山虎はまのこ

悟空びんごう







我々も唐僧師徒を饒一返さ。汝早く経をとり去。行者中より罵さ。曰  
 潑奴怪偽言を吐く。我何ぞ信ぞ。汝兄弟を二棍り。一  
 殺一師父を救出せ。銀角大ら怒。雲中小跳。上を宝剣を輪。一  
 行者中より鉄棍を擧。相逆。半空の中。在る。戦。三十余合。未  
 と勝負を分。ず。行者心焦燥。那棍金繩を把。り。刷喇。銀角。投  
 う。銀角元来。一個の緊繩。兄あり。又一個の鬆繩。兄あり。若他人の  
 を縛。り。何と鬆繩。兄を念。下。已他人を縛。り。何と緊繩。兄を念。と。今行者  
 う。投。け。繩。を。ん。已。が。宝。貝。の。棍。金。繩。か。多。を。知。念。小。鬆。繩。兄。を。念。下。  
 繩。を。脱。し。却。て。行者。を。望。み。抛。け。緊。繩。兄。を。念。ず。さ。の。行者。も  
 鬆繩。兄。を。念。ず。され。此。繩。を。脱。し。能。き。さ。か。る。金。圈。子。小。う。す。れ。  
 一。更。小。働。死。す。銀。角。頓。く。繩。を。曳。く。洞。中。小。う。り。大。音。小。長。凡。々。

我孫行者。我々。拿。き。り。と。呼。ぶ。や。ど。金。角。是。が。大。小。悦。び。銀。角。切  
 を。賞。す。小。怪。們。小。付。行者。を。細。丸。他。が。懷。中。我。搜。一。葫。芦。淨。瓶。の。二  
 件。を取。返。す。兄弟。後。面。小。令。飲。酒。と。行者。小。般。衆。が。這。回。居。る  
 が。監。怪。乃。立。去。を。ん。身。を。消。く。圈。子。我。ぬ。け。毫。毛。我。抜。く。衆。小。已。が  
 形。と。わ。く。柱。小。般。衆。だ。本。身。喪。く。小。怪。と。り。後。面。小。令。曰。那。孫。行。者  
 柱。小。般。衆。を。わ。か。り。頻。小。爬。躑。い。む。終。小。那。棍。金。繩。を。磨。切。い。下。一。條。乃。粗  
 壯。乃。繩。と。細。換。い。ん。と。ヤ。れ。金。角。使。く。わ。く。腰。間。より。一。條。の。獅。鬘  
 帶。を。解。く。行者。小。あ。え。行者。是。を。請。り。去。く。假。行者。を。細。丸。宝。貝  
 乃。繩。小。袖。内。小。毫。毛。一。根。乃。毫。毛。を。抜。く。衆。小。棍。金。繩。と。く。金。角  
 小。あ。え。金。角。是。を。假。物。と。も。守。請。取。く。収。む。行者。小。急。小。身。を。縛。り  
 門。外。小。ま。り。出。本。棚。を。頭。へ。高。く。呼。ぶ。と。曰。者。行。孫。き。り。と。潑。怪。



悟空 ごくう  
戦大 おんたい  
與銀 ぎん  
角大王 かくだいおう



西遊記

西遊記

十三



とく出よ。小怪せう死急小まきり。今斯と報ぐれば。金角大兄。孫  
 行者を拿手。柱小細。たれとふ。又者行孫とい者き。れふ如何。銀角  
 曰。長兄。放心。まふ。我這葫芦をりつ。他を装き。りいんと。那紫  
 金紅葫芦を携へ。まきり出く。曰。汝は何者ぞ。行者曰。我は孫行  
 者。舎弟者。行孫なり。汝我家兄を拿手。故小仇を報せん。為まされ  
 也。銀角曰。汝まきり。仇を報と。我汝と戦ふ。能か。我只汝を一声呼  
 ん。小汝よ。應んや。行者曰。我何と答ん。銀角悦ひ。空中。跳り。葫  
 芦をとろ。見朝天見朝地者。行孫とよ。行者敢て。應む。銀角二声  
 よ。行者心中。小かり。我。真乃。孫行者なり。今者。行孫。鬼名を  
 きむ。他。應む。何乃。姑あんと。思惟。忍不住。一声。應む。れ。バ  
 忽ち。吸き。葫芦。乃。中。装入。まきり。銀角。貼。上。帖。見。此。宝

え。来。名字。乃。真。假。小。不。管。中。を。答。る。心。有。く。就。ち。装。入。る。不。側。乃  
 宝。貝。なり。因。小。行。者。葫。芦。乃。裡。小。装。入。る。眼。を。ひ。り。見。る。小。烏。黒。小。  
 物。を。守。る。も。大。膽。不。敵。乃。行。者。些。も。恐。ず。心。中。小。かり。我。五  
 百。年。前。老。君。我。を。八。卦。炉。中。小。煉。成。む。我。銅。頭。鉄。背。火。目。金。睛。遂  
 小。免。る。も。成。ほ。り。他。が。此。葫。芦。一。回。三。刻。凡。人。を。化。し。血。水。と。も  
 我。を。化。し。も。能。か。他。が。封。を。用。く。を。待。て。走。去。ん。心。を。定。め。り。因。り  
 銀。角。葫。芦。を。携。へ。洞。中。へ。り。金。角。小。謂。小。弟。既。小。者。行。孫。と。葫。芦  
 乃。中。へ。装。き。り。い。と。云。金。角。大。兄。悦。び。賢。弟。手。の。動。き。守。拿。ま。き。り。勇。ま  
 し。さ。早。く。他。を。化。し。盡。し。血。水。と。り。揭。開。帖。見。銀。角。領。掌。一。檢。訣  
 念。咒。腰。骨。を。化。し。了。也。早。連。腰。骨。を。化。し。り。い。と。云。金。角。喜。び  
 今。八。開。帖。て。見。よ。と。令。と。行。者。是。成。す。就。ち。毫。毛。を。抜。く。半。截。身。と



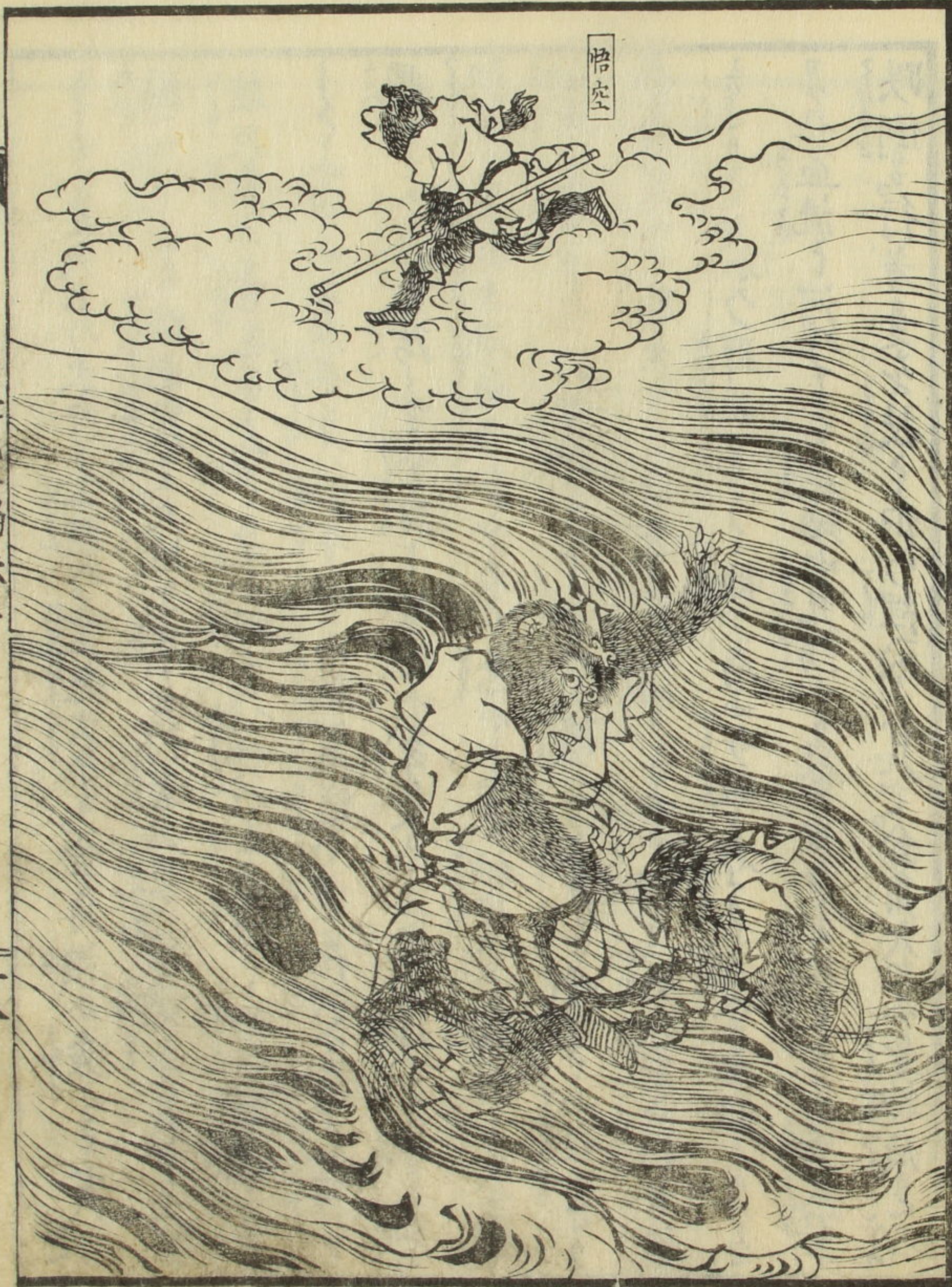




一々空中小飛上り假胡芦をとろく一声行者孫と呼行者是をきて  
 連吉小八九声應すれども敢て装束を能く守銀角仰天しく忽ち空中  
 より大地墜脚を跌く曰天世情を喪む恐くハ汝が胡芦も敢て装  
 束不能行者が曰汝先胡芦を収よ我論到かれを汝を呼んとき急小  
 筋斗雲小跳上り胡芦を以て底兒朝天兒朝地一声高く銀角大王  
 と呼銀角声小應く一声應る小忽ち装束を胡芦の裡へ吸入る行  
 者早く貼すく急々如律令と帖子雲端を下り速小蓮花洞小到  
 り胡芦を揮廻し勇小勇まう響く曰我一線く銀角を拿すり汝亦  
 早く師父をくく罪を謝せむハ塵芥せん小怪大不恐怖く遠  
 しく金角より前より大王禍ハ既小いなり那行者孫銀角大王を胡  
 芦乃内小袈裟きりいと報む金角少もあざど地小跌倒声を放つ大

小思々ハ洞裡の群妖も一存小病哭然る小又小怪鬼きり行者孫已小  
 洞門破破く進まきりいと金角大不孩丸急小芭蕉扇をとろく  
 後小挿し七星劍を提り跳出汝激猴我弟を害を誓く汝が肉を以  
 ち弟乃靈を祭むを不止行者嘲く此激怪む言を止く早  
 く我師父を返せ然るハ汝が拘命を饒さハ金角大不怒し七星劍を振  
 り切く行者金芭蕉扇を提り戦する二十余回いす勝負を合  
 せし小數百乃群妖金角を杖ハ方より行者小切く行者女  
 一由出さす身外身乃法をつくハ把乃毛を抜とり口小合が吹出せむ  
 無數乃行者とかり群小怪をち散ると風乃雲を拂かす金角是  
 を乃急小芭蕉扇を取南方丙丁乃位小向く煽ハ只見地上二面の  
 火光となり煽々と煽上る元来此扇平地を一度煽を忽ち火を出し





悟空



金角

揮<sup>を</sup>火<sup>を</sup>  
扇<sup>あ</sup>金<sup>を</sup>  
角<sup>を</sup>燒<sup>く</sup>  
悟<sup>を</sup>空<sup>を</sup>

世法言二編卷二



きく。是天上の火の一點の靈光大なり。金角機小集し七八丁  
 撮ハ列々。焰彪幾里。大地を焦と行者此悪小焼三られ。大  
 孩た急小毫毛をと。身小収り只一條の毛。以て假小我像とな  
 しく火中ぬれ。本身ハ舐斗雲小跳駕。匡小蓮花洞小至。鉄棒と  
 廻し。小怪を殊守。半殺し。後面小走り。今三藏師徒を尋る。処小  
 机小羊脂玉浄瓶。右をカケ。急小と。袖中小ハ。此何。金角  
 洞中へ。きく。行者師又を尋ね。隙なく。身を要。小怪となり  
 金角を。胸を。痛。大王。何ぞ。遅。前。行者孫  
 き。大小の群妖。他。為。小殺。云。金角。を。  
 刀。血流。河。屍地。充滿。金角。を。放。大。果。大地。小  
 跌倒。行者。是。を。杖。洞。の。裡。へ。小。れ。金角。大。小。身。小。疲。是。石

つ。案。上。小。伏。目。眠。行者。傍。小。在。他。呼。て。熟。睡。も。成。行  
 ひ。暗。小。芭蕉扇。を。抜。身。を。返。し。逃。れ。走。る。金角。足。音。小。驚。死  
 腹。を。覚。行者。が。芭蕉扇。を。捨。去。を。大。怒。を。剣。を。追  
 き。行者。も。是。を。カ。扇。子。を。腰。小。挿。鉄。棒。を。同。金角。と。戦  
 る。三。十。余。回。金角。抵。敵。も。不。能。西南。を。逃。走。り。履。意。洞。へ  
 遁。入。行者。長。追。せ。頭。を。同。蓮。花。洞。へ。終。小。師。又。沙。和。尚。と。探  
 り。下。り。解。下。八。戒。を。池。水。の中。小。杖。上。小。合。限。なく。素。衣。を  
 細。師。徒。四。人。飽。食。其。夜。洞。裡。小。安。臥。斯。金角。ハ。履。意。洞  
 小。在。小。残。小。小。怪。を。呼。集。再。度。妖。兵。を。調。蓮。花。洞。寄。き。行  
 行者。斯。と。中。小。僧。小。師。又。を。尋。自。身。ハ。八。戒。と。俱。小。門。外。小。出。教  
 を。送。金角。先。誼。批。阿。七。と。怪。陣。頭。小。出。高。声。小。罵。曰。汝。此



濃撰濃撰夢夢吾吾金角大王金角大王先先乳乳寸寸早早くく頸頸を伸伸くく死死就就上上八八戒戒ううれ  
為為躰躰をを刀刀々々ふふ。玉玉面面長長髯髯鋼鋼眉眉刀刀耳耳ゆゆくく手手ふふ方方天天戟戟ををふふりり。八  
戒八戒一一言言のの回回答答中中のの及及をを守守鉈鉈をを靴靴手手一一声声叫叫ぶぶ擧擧ぐぐるるのの。兩兩人人戰戰ぶぶのの十  
四十四回回つつまま。雌雌雄雄をを分分けけるるのの。金金角角群群妖妖をを下下知知くく一一声声小小聲聲してして掛  
ららししむむ。行行者者もも金金箆箆棒棒をを揮揮ぐぐ八八戒戒をを投投げげ大大軍軍小小相相當當るる。沙沙悟悟淨  
洞洞中中よりより是是をを告告ぐぐ。三三藏藏をを深深くくかかくく死死。宝宝杖杖をを回回ししてて横横合合ししり  
群群妖妖をを抄抄退退るるののゆゆぞぞ大大軍軍沙沙和和尚尚小小不不意意ををううれれ利利をを失失ひひててやや  
走走れれ。孤孤阿阿七七もも敵敵をを振振捨捨てて引引退退くくをを八八戒戒追追けけりり。鉈鉈不不引引けけ  
引引倒倒ししてて殺殺ししりりくくるるのの。是是二二頭頭のの孤孤猱猱ゆゆをを右右々々。金金角角還還小  
孤孤阿阿七七がが討討ままししるるをを刀刀々々急急ぶぶるる返返しし八八戒戒小小ああららるる。沙沙和和尚尚ゆゆ  
中中のの宝宝杖杖をを揚揚ぐぐ八八戒戒をを投投げげ一一往往一一来来ししてて挑挑むむ戰戰ふふ。此此同同行行者者只只雲

上上小小跳跳上上りり。淨淨瓶瓶をを解解下下ししてて一一声声金金角角大大王王とと呼呼ぶぶ。金金角角是是をを我我小小怪  
つつ呼呼とと心心はは頸頸をを回回ししてて二二声声應應むむ。忽忽ちち吸吸ままくく淨淨瓶瓶のの内内ふふり  
へへらられれぬぬ。行行者者急急ぶぶ貼貼上上をを帖帖子子他他ががししりり落落ししるる。七七星星劍劍をを拾拾ひひり  
邪邪刀刀をを拂拂ひひ棄棄ししてて洞洞中中へへ引引返返しし。三三藏藏ふふるるのの始始末末をを語語らられれ。大大小  
ううろろくく其其功功をを賞賞しし。早早夜夜をを吃吃ししてて早早くく西西天天小小行行ししとと立立よよるる。洞洞小小空  
中中小小人人有有るる。孫孫行行者者我我宝宝貝貝をを還還せせししりり。行行者者空空々々空空中中へへおおりり上上つつてて  
是是をを告告ぐぐ。是是本本寺寺老老君君なりなり。行行者者其其由由をを問問ふふ。老老君君がが曰曰ふふ。那那胡胡苦苦をを我  
仙仙丹丹をを盛盛るる。宝宝貝貝淨淨瓶瓶ハハ我我水水をを装装のの宝宝貝貝宝宝劍劍之之廣廣をを煉煉宝宝貝貝扇扇ハ  
火火をを搦搦るる。宝宝貝貝纆纆金金繩繩ハハ我我勒勒袍袍帶帶なりなり。邪邪刀刀怪怪一一個個のの金金貯貯童子童子  
一一個個のの銀銀貯貯童子童子なりなり。他他我我宝宝貝貝をを偷偷みみ下下界界へへ逃逃まましし。所所在在をを知知ららずず  
小小不不期期もも今今汝汝小小拿拿らられれりり。行行者者叱叱りり曰曰ふふ。汝汝這這老老官官兒兒。從從小小家家童童を



放<sup>はな</sup>て吾<sup>われ</sup>師<sup>し</sup>又<sup>また</sup>小<sup>こ</sup>害<sup>がい</sup>を<sup>を</sup>た<sup>た</sup>せ<sup>せ</sup>經<sup>きやう</sup>を<sup>を</sup>と<sup>と</sup>り<sup>り</sup>邪<sup>じゃ</sup>を<sup>を</sup>た<sup>た</sup>す。服<sup>ふく</sup>方<sup>かた</sup>小<sup>こ</sup>汝<sup>に</sup>小<sup>こ</sup>あり  
老<sup>らう</sup>君<sup>きん</sup>白<sup>はく</sup>。是<sup>こゝ</sup>より我<sup>われ</sup>預<sup>あづか</sup>る<sup>る</sup>處<sup>ところ</sup>小<sup>こ</sup>あり。汝<sup>に</sup>が師<sup>し</sup>徒<sup>た</sup>大<sup>だい</sup>あり。難<sup>なん</sup>小<sup>こ</sup>逢<sup>あ</sup>は<sup>は</sup>る。此<sup>こゝ</sup>  
難<sup>なん</sup>小<sup>こ</sup>逢<sup>あ</sup>は<sup>は</sup>る。正<sup>せい</sup>果<sup>くわ</sup>小<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>難<sup>なん</sup>。行<sup>ぎやう</sup>者<sup>しや</sup>度<sup>た</sup>々<sup>々</sup>初<sup>はつ</sup>々<sup>々</sup>然<sup>ぜん</sup>五<sup>ご</sup>件<sup>けん</sup>の<sup>の</sup>宝<sup>ほう</sup>貝<sup>がい</sup>  
を<sup>を</sup>老<sup>らう</sup>君<sup>きん</sup>小<sup>こ</sup>返<sup>かへ</sup>す。老<sup>らう</sup>君<sup>きん</sup>胡<sup>こ</sup>芦<sup>ろ</sup>淨<sup>じやう</sup>瓶<sup>びやう</sup>の<sup>の</sup>口<sup>くち</sup>を<sup>を</sup>開<sup>ひら</sup>か<sup>か</sup>す。兩<sup>りやう</sup>股<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>仙<sup>せん</sup>氣<sup>き</sup>と<sup>と</sup>出<sup>で</sup>  
一指<sup>いっし</sup>を<sup>を</sup>入<sup>いれ</sup>化<sup>くわ</sup>す。二<sup>に</sup>童<sup>どう</sup>子<sup>し</sup>と<sup>と</sup>行<sup>ぎやう</sup>者<sup>しや</sup>小<sup>こ</sup>別<sup>べつ</sup>々<sup>々</sup>天<sup>てん</sup>宮<sup>きやう</sup>と<sup>と</sup>り<sup>り</sup>々<sup>々</sup>

繪本西遊記二編卷之二畢



